



ハンドボール成年女子 久々の本大会出場

福岡大学チームで編成した本県は、1回戦で三重県と対戦。三重県は、日本ハンドボールリーグ4位(2017~18シーズン)の強豪「三重バイオレットアイリス」のメンバー。

ディフェンスでは、体格の差を生かされポストを中心としたプレーで失点を重ね、オフェンスでも、相手の激しいコンタクトにより、なかなかスペースを作れず、前半を6-18で折り返した。

後半、徐々にペースをつかみ始め、ディフェンスと位置をずらしながら間合いをとることで、フリーでシュートを打てる場面が増えてきた。また、ゴールキーパー下地選手も当たり始めたが、前半の点差を埋めるまでには至らず、15-28で試合終了。前半の試合運びが悔やまれるゲームとなった。

試合後、中原監督は、「すべてにおいて力の差を感じた。完敗だった。インカレ、そして来年の国体に向け、一からやり直す」と前を向いた。

今回、久々の出場となった成年女子。今大会は悔しい結果となったが、多くの収穫もあり、次に向けての課題も見えてきた。ぜひ、来年の国体に向け、フィジカル、メンタル、スキルともに更なる強化を図り、リベンジに期待をしたい。



【円陣を組む本県チーム】



【今村選手のシュートシーン】



チームワークのクレー射撃選手団！好スタート！

第1ラウンド終了時点での順位は、スキート競技7位タイ(61ポイント)、トラップ競技5位タイ(63ポイント)と好スタートを切った。トラップ競技では、尾上選手が後半の集中力で追い上げを見せ、25発中22発を的中させた。また、スキート競技に出場した吉田選手も第9組のトップで第2ラウンドを終えた。

試合後の選手たちは、「目標は8位入賞。普段の練習通りに撃てるかが入賞への鍵となる。」と答えた。さらに、インタビューの中で、選手たちが口をそろえて言った言葉がある。それは「チームワークがとても良い。」ということ。クレー射撃は、技術はもちろんメンタルの強さが勝敗の鍵になる。チームワークを感じる本県選手団は、1つ1つの競技を全員で戦っている強みがあり、改めて「チーム力」の必要性を感じた言葉であった。「昨年度とは明らかに違う流れがある。チャンスはある。」とコメントを残した福岡県クレー射撃協会不老会長の想いも強く、明日からの戦いも目が離せない。



【吉田渉選手の射撃】